

訪問リハビリテーションにおいて 家事活動を行った脳出血右片麻痺の 53歳女性

大越 満, 山田尚子, 細野豊和, 小野明子
(医)らぽーる新潟ゆきよしクリニック

[はじめに]

今回，退院直後から訪問リハビリテーション（以下，訪問リハ）において家事活動を行い，満足度が若干向上した一例を報告する。

[経過 1]

Aさん. 53歳女性. 平成18年10月に左視床出血による右片麻痺を呈した. 回復期リハ病棟を経て翌年4月に自宅に退院した.

退院時のADLはBarthel index(以下, BI) 70点であった.

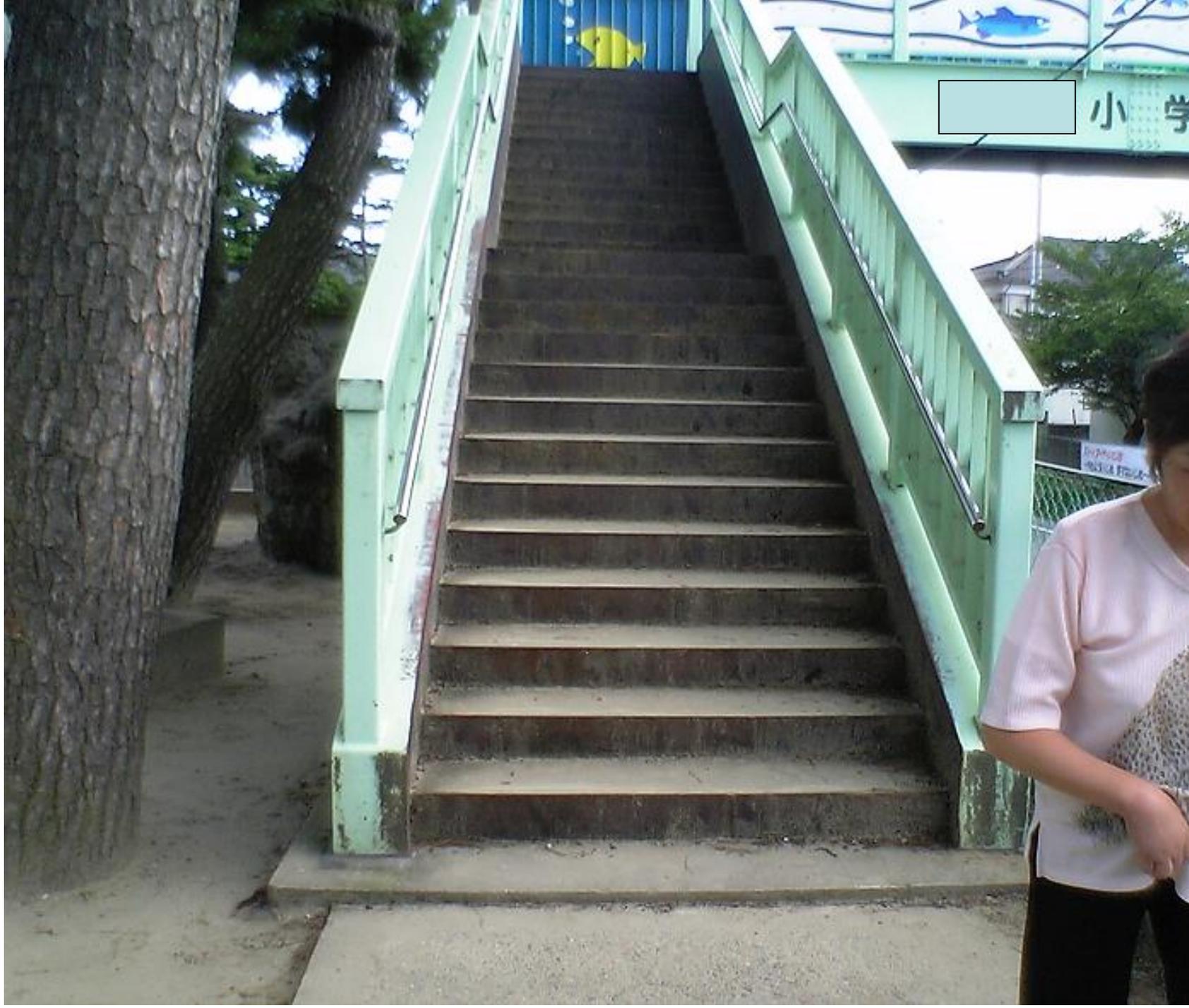
訪問リハはOTとPTそれぞれ1回ずつ, 週2回実施した.

[経過 2]

3か月後，移動と排泄が自立しBIは80点に向上した．

OTでは家事活動として，包丁で野菜を切ること，洗濯物を干すこと，掃除機がけ，テーブル拭き，屋外での階段昇降を行った．





小学

[方法]

カナダ作業遂行測定（以下，COPM）を用いて「重要度，遂行度，満足度」を聴取した．訪問リハの初回時と，3か月後に測定した．

[結果 1]

Aさんが重要であるとした作業は、
「掃除をすること」
「買い物をする事」
「食事を作る事」
「洗濯をすること」の4つであった。

[結果 2]

「洗濯をすること」の遂行度と満足度は10点満点中いずれも1点から8点へ向上した。

「食事を作ること」「掃除をすること」は、訪問リハで取り組んではいたが、遂行状況は変化せず満足度も低かった。

表 カナダ作業遂行測定(COPM)の結果

問題	重要度	初回評価		再評価	
		遂行度	満足度	遂行度	満足度
1. 掃除をすること	8	2	1	2	2
2. 買い物をすること	8	1	1	2	2
3. 食事を作ること	6	1	1	2	2
4. 洗濯をすること	6	1	1	8	8

* 各項目は10点満点.

[考察]

Aさんは家庭内では主婦としての役割があり、その役割を一部遂行できるようになった。訪問リハにおいて直接的に家事活動を行ったことがAさんの満足度を向上させたのか、今後さらに経過を追っていきたい。